

ようじえんだより 2017年度6月号

十日町幼稚園 〒948-0083 十日町市本町西1丁目 253 番地
Tel:025-752-2068 Fax:025-752-2189

6月主題『わくわくする』

主題聖句：「これは主の御業 わたしたちの目には驚くべきこと。」詩編 118 編 23 節
☆ 0～2歳児：さんびかや祈りのことばに心を合わせる。友だちや身近な物事に心を動かす。自然にふれて興味をもつ。

☆ 3～5歳児：神さまが創られた自然の不思議さに目をとめ、関心をもつ。いろいろな物を使って遊び、興味や関心が広がる。生活の中で、予想したり試したりする。

わくわくよりもドキドキ？

皆さんは初めての体験ってわくわくするタイプでしたか？ドキドキするタイプでしたか？たいていの人はどちらも該当すると思うのですが、私は幼い頃は本当に新しいことにチャレンジすることが苦手な子どもでした。わくわくなんて全くせず、嫌悪感を伴ったドキドキ感をいつも持っていたように思います。今振り返ると、自分で選びとった遊びを展開して深めるといよりは、先生や親などによって強制される遊びが多く、しかもそれが先生や親の意図と違う反応であった時には、注意されたり怒られたりしていました。今思うと私は非常に自尊感情(自己肯定感)の低い子どもだったと思います。

もちろん性格傾向はあるけれど…

前任地で幼稚園の園長になり、まがりなりにも幼児教育を勉強するようになって、自尊感情(自己肯定感)がいかに大切であるかをいろんな所で見聞するようになりました。我が子には私のようになってほしくないと思い、自分が育てられたようではない環境をなるべく設定しました。しかし我が子はなかなか集団になじまず、怖がり、親の目から見るともつとできるだろうに本当にチャレンジしない

感じがしました。自分の小さい頃にそっくりでした。「これは遺伝か…」と思いあきらめの気持ちになりました。しかし我が子の姿をよく見ていると、チャレンジしている友だちの姿を楽しそうに見ていたり、家に帰ってきて「○○くんってすごいんだよ」と自分のことのように自慢したりしていました。十日町に来てから初めてのスキーでも、うまくできずリフトにも乗れませんでした。一人黙々とただらかな傾斜を滑っては板を外して歩いてあるところまで登る、そしてまた滑るを繰り返していました。彼女なりのチャレンジの仕方があり、できるようになる中で少しずつわくわくを大きくしていたのでしょ。

子どもの良き伴走者として

何にも興味を示さない子どもはいません。何かに興味を示し、自分なりに試行錯誤しようとするのです。それを否定したり馬鹿にしたるのではなく、「すごいじゃん」と共感し「こうしたら○○にもなるよ」と助言したりする中で子どもは自分自身のペースで成長します。子ども自身が自分の人生を自信を持って歩めるために、私たち大人は子どもの「良き伴走者」でありたいと思います。

園長：久保田愛策

年間主題『愛されて育つ』

主題聖句：あなたがたは神に愛されている子どもです
新約聖書 エフェソの信徒への手紙 5章1節